



Frontier Spirit!

第 8 号

H29.3.24

文責:仲山

J Hinata

合格おめでとう!

本日学年末最後の授業日を迎え、今年度も終わろうとしています。先日卒業した3年生も、それぞれ進路が決まり、新たな第一歩を踏み出そうとしています。今年も多くの生徒が第一志望を目指し、懸命に取り組んだ結果、素晴らしい成績を残しました。その52期生の先輩方の合格体験談を昨日1, 2学年に分かれ聞くこともできました。大変参考になったと思います。1年後2年後はまさに今の1, 2年生がその受験に直面します。多くの先輩に続けるようがんばって下さい。しかし、合格した先輩の陰にはその2倍くらいの悔しい思いをしている人もいることも忘れないでほしいと思います。合格した人のことはよく目にしますが、不合格者の人はほとんど見かけないと思います。しかし、実際には、不合格を経験した人の方が合格者よりもずっと多いのです。以下、3年生の主な合格状況を示します。

国公立大学合格者 131名 (3月23日現在・現役のみ)

東京大学 3名 (文科二類1名・理科一類2名)
 京都大学 1名 (法学部)
 山梨大学 51名 (教育学部8名 生命環境学部6名 工学部23名
 医学部医学科8名 医学部看護学科6名)
 山梨県立大学 7名 (国際政策学部4名 人間福祉学部2名 看護学部1名)
 都留文科大学3名 北海道大学1名 東北大学8名
 名古屋大学2名 東京工業大学1名 東京医歯大学1名
 東京外国語大学1名 東京学芸大学2名 電気通信大学2名
 北見工業大学1名 筑波大学2名 千葉大学2名
 横浜国立大学1名 新潟大学2名 富山大学1名
 金沢大学1名 信州大学9名 静岡大学5名
 広島大学2名 山口大学1名 秋田県立大学1名
 国際教養大学1名 前橋工科大学1名 高崎経済大学3名
 千葉保健医療大学1名 首都大学東京5名 横浜市立大学2名
 長岡造形大学1名 長野大学1名 静岡県立大学2名
 静岡文化芸術大学1名 大阪府立大学1名 高知工科大学1名

今後の主な予定

3月
 23日(木) 合格体験談・進路講演会
 学年集会・生徒総会
 24日(金) 終業式・離任式
 27日(月) 南高音楽祭

4月
 7日(金) 新任式・始業式
 8日(土) 入学式

私立大学のべ267名合格

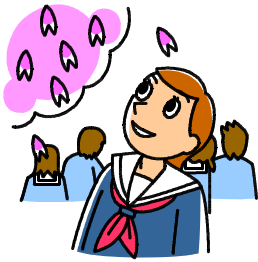
早稲田大学5名 慶應義塾大学3名 明治大学4名 法政大学4名
 中央大学10名 立教大学1名 青山学院大学3名 日本大学14名
 東洋大学6名 駒澤大学6名 専修大学9名 東海大学6名
 東京理科大学9名 芝浦工業大学7名 東京都市大学4名 工学院大学5名
 東京薬科大学6名 千葉工業大学14名 文教大学9名 神奈川大学14名
 山梨学院大学21名 山梨英和大学5名 健康科学大学4名 他多数

また、浪人した先輩方も、今年は東京大学1名、京都大学2名、山梨大学医学部4名をはじめ、昨日までに国公立大18名、私立大学のべ39名の合格の報告がありました。特に国内最難関と言われる東京大学理科三類には本校から12年ぶりに合格者が出ました。ちなみに東大理科三類に今年度、公立高校から合格した生徒は全国で6名だけです。



来年の受験生にとって今が一番大事な時期です。

今年度、残念ながら志望校に合格できず、来年度再度チャレンジする受験生は、もう来年の受験に向けてのスタートを切らなければなりません。その来年度の受験生にとって最も差のつく時期がこの2～3月といわれています。私自身多くの浪人生を見てきましたが、この2月末から4月の当初までに3月の後期試験に向けてしっかり取り組み、来年度に向けて必死にやっていた生徒は翌年度に好結果を得ることが多かったように思います。卒業時に浪人する生徒には必ず「夏までが勝負、今の時期にどれだけ取り組めるかが大きな差となる。」と言っています。これを現2年生に当てはめて考えるとどうでしょうか、確かに現役生は夏以降、メキメキ力を伸ばしてきて浪人生を追い越していくというイメージがありますが、東大や国公立大医学部など難関大に現役で合格している生徒を見ていると、すでに3年のスタート時にはある程度仕上がっているという感じもします。これはやはりこの春の過ごし方が大きく影響しているのではないのでしょうか。4月になると学校も新学期となり、夏までは学校行事も盛り沢山であったり、クラブ活動も佳境を迎え忙しい日々が続くと思います。もしかすると夏休みまでまとまって学習する時間が取れないなんてことも考えられます。しかし、この2月末から4月上旬にかけての1ヶ月半は、高校の授業も少なく、最も自分で学習できる時期でもあるのです。この時期を有効に使うことが大切だと思います。過日、本校に春季講習で来ていただいた駿台予備学校の鳥光先生も、同様の話をしていました。



目指せ文武両道！ 甲府南高校

先日、東京大学野球部監督の浜田一志先生の話聞く機会がありました。東大野球部というと、94連敗するなど六大学では弱いというイメージがあるかもしれませんが、高校時代から野球部として厳しい練習に取り組んできた生徒が多く入学しており、甲子園に出てもベスト4くらいに入る実力はあると言っていました。そんな東大野球部は究極の文武両道と言えるのではないのでしょうか。そんな東大野球部に入る生徒というのは、どんな高校時代を送っていたのかというと、高校3年の夏までは、土日も含めて1週間の平均として、学校+自宅学習7時間、野球5時間、自由時間3時間(含む通学)、という生活を送っていたそうですが、現役で合格する生徒は、3年夏からは野球の5時間をすべて勉強に費やすそうで、学校+学習が12時間を越えるか越えないかが合否の分かれ目になるのだと言っていました。これを先生は「12時間の壁」と呼んでいるそうです。多くの東大野球部員の高校時代の模試判定の動向は、高校3年春からずっと「A」判定か、高校3年春「E」→夏「D」→秋「B」の2つのパターンが多いそうです。つまり野球をやりながらもずっと安定的に好成績を上げている天才型か、高3夏の引退からグッと頭角を現してくる努力型かのどちらかと言うことでしょうか、しかし後者の方が割合的には多いそうです。先生によると、東大野球部員の特徴として「努力を続ける才能がある」「時間を使うのがうまい」「負けることが嫌い」という傾向があるそうです。それがよい方向に向けば大きな力になるのだと思います。また、先生は「身近なお手本を見つけること」「基礎の充実」「モチベーションの維持」「得意技をつくる」ことが大切であるとおっしゃっていました。このあたりは本校の生徒にもできることだと思います。ちなみに東大野球部の就職状況はプロ野球などに行く人は先ずいませんが、誰もが知る大手の会社にほとんどの学生が就職しており、素晴らしいものでした。OBの存在というものが大きいのだと思いました。

さて、その浜田先生が作成した「高校文武両道ランキング」というのがあります。それによると本校は全国170位(山梨県内3位)という順位でした。県下1,2位を争う進学校にもかかわらず文武両道の面でもこれだけの数字を上げているのは素晴らしいことだと思います。この伝統の力をこれからも続けていってほしいと思います。

